

第6学年 国語科 授業構想シート

授業者 宮脇 隼

本実践の主張点	一人一人が異なった対象への文章を書くことで、筆者の巧みな表現の中からそれぞれの対象物にあった表現を選び、生きて働く書く力をもつ子が育つだろう。
---------	---

1. 単元名 宝物を輝かせる文章表現～未来につなぐ「自分遺産」を書こう～  
教材名 『鳥獣戯画』を読む（光村図書6年）

2. 6年B組の子ども

子どもたちは、思春期を迎え悩みが多い時期である。悩みを解消、回避するために、心の支えになるような宝物の存在があるのではと考えている。そんな「12歳の宝物」への熱い想いを文章化させ、その文章を「自分遺産」として残す。本学級の子どもたちは1学期の説明文の学習で、筆者の表現の工夫をもとに相手を納得させるための説明方法について考えた。しかし、筆者の表現方法に着目したあまり、その表現方法がどのような効果を生み出しているのかを考えることは不十分だった。本実践では、どのような効果をねらうのかを明確にし、表現方法を選択させる。

3. 何ができるようになるか

探究力	省察性
・筆者の主張や表現の効果を読み取り、自身の対象への想いを表現するために、対象にあった表現方法で文章を書く力（推敲力）	・筆者の主張や表現の効果から、自己の表現にあった効果の妥当性を考え選択する力（推敲力を支える省察性）

4. 何を学ぶのか

① 単元の目標

筆者の対象への熱い想いを読み、それを支える表現方法の巧みさや生み出されている効果へと目を向け、自身の文章へも目的にあった表現方法を選択して文章を書くことができる。

② 教材の価値

筆者にとって『鳥獣戯画』は、自身の生き方に大きな影響を与えた作品である。文章から筆者の対象への熱い想いが伝わってくる。それが、巧みな文章表現や、筆者の主張につながっている。ただ文章表現をなぞるのではなく、どうして筆者はこのような表現や主張をしているのかを考えさせたい。そして、筆者の対象への想い、対象から受けた生き方を変えるほどの影響を読み取らせたい。本実践では、本当に子ども一人一人にとって今の想いが込められている対象について文章を書かせる。この対象だから筆者のこの表現を真似たといえる書く力をつけたい。

③学年間・教科間のつながり

年間を通してテーマごとの「自分遺産」を書く。「自分遺産」には、12歳の考え方や価値観を切り取り、未来の自分への贈り物としたい。1学期に行った「私と本」では、読書経験や大切な1冊についての文章をまとめた。本実践では「自分と大切なもの（宝物）」についての想いを文章化し、3学期教材である「海の命」では「自分と周りの人々」として文章化する。子どもたちは、「自分遺産」を書くことを目的としながらも、それぞれの教材における、書くための見方・考え方を働かすことができるようにしたい。

5. どのように学ぶのか

①働かせたい思考スキル

くらべる   
  つなげる   
  まとめる   
  広げる   
  予想する   
  見方を変える

②学習内容を理解し、資質・能力を育成するための学習過程

単元計画（全13時間） 本時 8/13 第1次 宝物ってなんだろう 1：宝物大集合 みんなの宝物は何？ 2：「宝物」について考えを交流する 第2次 高畑さんの宝物への想いを読もう 『鳥獣戯画』を読む 3：高畑さんと『鳥獣戯画』 4.5：高畑さんの想いが伝わる文章は？ 6.7：文章表現の効果について 8：効果をもとに表現方法を分類してみよう ※どこかで【読む】のルーブリックを子どもと設定したい。本実践では、初めに全てのルーブリックを示すのではなく、それぞれの活動でルーブリックを設定する。また、教師が示すのはB評価にする。子どもからの言葉でA評価を作る。(第2次の前半で1時間) 第3次 宝物を「自分遺産」に登録しよう 10：【書く】ためのルーブリックとは 11：自分の宝物と表現方法 12.13：文章に書こう	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">単元における授業づくりのしかけ</th> </tr> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;">探究力を育む</td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 筆者の表現方法について、生み出す効果について考える。</li> <li>• 子どもたちが解決したいと思える単元を貫く「ほんまもん」の課題(パフォーマンス課題)を用いる。</li> <li>• 目的や課題を明確にし、他者とのつながりの中で、自己の考えを深めたり変化させたりできる授業づくりを行う。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">省察性を育む</td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 効果について考え、自身の対象にあった表現方法に選択できる環境を設定することで、妥当性を考えやすくする。</li> <li>• ゴールを明確にした単元計画を示し、子どもたちが見通しをもって話し合い、振り返りができる場面や環境を設定する。(ルーブリック)</li> </ul> </td> </tr> </table>	単元における授業づくりのしかけ		探究力を育む	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 筆者の表現方法について、生み出す効果について考える。</li> <li>• 子どもたちが解決したいと思える単元を貫く「ほんまもん」の課題(パフォーマンス課題)を用いる。</li> <li>• 目的や課題を明確にし、他者とのつながりの中で、自己の考えを深めたり変化させたりできる授業づくりを行う。</li> </ul>	省察性を育む	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 効果について考え、自身の対象にあった表現方法に選択できる環境を設定することで、妥当性を考えやすくする。</li> <li>• ゴールを明確にした単元計画を示し、子どもたちが見通しをもって話し合い、振り返りができる場面や環境を設定する。(ルーブリック)</li> </ul>
単元における授業づくりのしかけ							
探究力を育む	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 筆者の表現方法について、生み出す効果について考える。</li> <li>• 子どもたちが解決したいと思える単元を貫く「ほんまもん」の課題(パフォーマンス課題)を用いる。</li> <li>• 目的や課題を明確にし、他者とのつながりの中で、自己の考えを深めたり変化させたりできる授業づくりを行う。</li> </ul>						
省察性を育む	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 効果について考え、自身の対象にあった表現方法に選択できる環境を設定することで、妥当性を考えやすくする。</li> <li>• ゴールを明確にした単元計画を示し、子どもたちが見通しをもって話し合い、振り返りができる場面や環境を設定する。(ルーブリック)</li> </ul>						

6. 何が身に付いたか

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	筆者の想いや表現方法の意図を読み取り、他者との意見交流の中で、自身の文章にあった表現方法を選んでいる。	筆者の想いを支えるための文章表現とその効果を読み取り、自身の文章にも活用している。	問題の解決を図るために必要なことは何かを考えながら、見通しをもち、学習の方向性を考えようとしている。